

# 令和7年度の活動

## 待機児童数改善・介護認定日数の短縮 犬の公園入場禁止ルールの見直しを要望

待機児童数は令和6→7年で34→9人に減少。未だ200名近い保留児童の解消を求めた。介護認定にかかる日数は令和7年1~6月平均40.9日。国の基準の30日以内に収めるよう要望。令和8年2月から認定審査会にペーパーレス会議システムが導入され日数の短縮が期待される。犬の公園入場禁止ルールは細川の一般質問を受けテレビ新聞各メディアが報道。市は公園愛護会にアンケートを実施。賛否は半々であり、市は今後実証実験を検討中。



6月

## 大船駅周辺の駐輪場不足を受け、 整備に関する要望書を市長に提出



10月

## 大船駅周辺の駐輪場不足の早急な改善と 東口再開発の今後について決断を求める

大船駅周辺の駐輪場不足について改善を要望。市は西口に暫定駐輪場を新規開設すると回答。東口の暫定駐輪場は建築費高騰等の理由で10年以上止まっている東口再開発事業の権利変換地であり、恒久的な



12月

立体駐輪場を建設し駐輪台数を増やすことはできないと回答。これを機に市議会では再開発事業について勉強会を開催。2月の代表質問では各会派も駐輪場と東口再開発事業について言及。



2617票7位で  
鎌倉市議会議員  
に初当選  
市民環境常任委員会  
に所属。しがらみの  
ない政治を目指し  
無党派で  
活動開始。  
4月

## 小学生の放課後の居場所 アフタースクールの入室管理を改善

放課後子どもひろば（アフタースクール）では、以前から参加カードを忘れたり、必要事項の記載がない場合は利用できないとしていたが、令和7年5月以降管理を徹底。入室を断り自宅に帰っていた。しかし



9月

## 市民環境常任委員会で小樽市・函館市の オーバーツーリズム対策を視察



10月

## 超党派の議員連盟「政治と介護を紡ぐ会」 で厚生労働省に要望書を提出



1月

## 市民環境常任委員会 オーバーツーリズムに対応する観光施策 について報告書を提出



2月

令和8年度一般会計予算についての討論

## 将来に持続可能な 市政運営を



地域の課題を  
お聞かせください！

公式LINE



## 鎌倉市議会議員 細川 まなか

平成元年生まれ、台在住の二児の母。小学生と幼児の二児の育児をしながら、要介護5の難病の父親の介護に奮闘中。経産省 OPEN CARE PROJECT AWARD2023 受賞 お茶の水女子大付属高校、麻布大獣医学部卒業 元食品メーカー開発担当、元ANAグループ

## GIGA スクール構想、 ダブルケア問題について提起

小中学生に一人一台配布しているタブレット端末について、機器の不具合が適切に対応されず学習に支障が出ていると児童からの相談を受け、教育委員会に改善を要望。3月からの端末入れ替え後はキーボード故障時は交換保障、タッチペンはいずれも全児童分購入と回答。育児と介護を同時に担うダブルケア人口は全国で20万人以上。部署間の連携による支援の拡充を求めた。（詳細は表面漫画）



2月

財務省が発表した令和8年度の租税負担率と社会保障負担率を合計した国民負担率の推計は45.7%、平成8年度は34.6%と30年間で約10%上昇しています。支援の拡大は、負担の拡大でもあります。

これだけの負担増の中でもなお、少子高齢化、人口減少、インフラの老朽化により、現在の生活が今後も維持できるか、将来に大きな不安を抱えています。地方自治体に於いても、歳出の見直しと効率化を徹底し、限られた財源の中で最大の効果を生み出す責任があります。

積み上げるだけの財政運営は、もはや限界です。今こそ、やらないことを決める勇気が必要です。時代にそぐわなくなった事業については見直し、必要であればやめる決断をしていただきたい。

新たに取り組む事業や拡充された補助についても、成果の検証とそれを受けた見直しが必要です。何よりも、全体のビジョンから逆算して政策を組み立て、優先順位を決めることが不可欠です。

今、必要なのは、未来に責任を持つ予算です。子供が生まれなければ、人口は減っていきます。当たり前だったインフラの維持が困難になり、これまでの生活ができなくなる可能性があります。

限られた財源の中で選択と集中が求められています。まちづくり全体のビジョンを実現するために必要な施策を計画し、一つ一つ根拠のある予算とする

とともに、各事業の実施後には想定していた効果をもたらしているのか、見直しと検討を繰り返し、将来に持続可能な市政運営とすることを求めます。

